

# Histological spectrum of angiofibroma of soft tissue: histological and genetic analysis of 13 cases

山田, 裕一

<https://hdl.handle.net/2324/1806884>

---

出版情報：九州大学, 2016, 博士（医学）, 課程博士  
バージョン：  
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）

氏 名：山田 裕一

論 文 名：Histological spectrum of angiofibroma of soft tissue: histological and genetic analysis of 13 cases

(軟部血管線維腫の組織学的スペクトラムについての検討：

13 症例の組織学および遺伝学的解析)

区 分：甲

## 論 文 内 容 の 要 旨

比較的新しい腫瘍概念であり、まれな良性軟部腫瘍である angiofibroma of soft tissue (AFST)は、AHRR-NCOA2/NCOA2-AHRR ないし GTF2I-NCOA2 融合遺伝子を有することが近年報告されており、診断に有用な所見と考えられている。一方、同腫瘍は組織像が多彩であり、組織像からの正確な診断は困難である。このため、組織学的スペクトラムを明らかにするため、組織学および遺伝学的レビューを行った。

研究対象として、これまで孤立性線維性腫瘍と診断された 276 例、未分類の線維性腫瘍 36 例および近年 AFST と診断された 8 例を使用し、最終的に 13 例が AFST に相当する腫瘍として抽出された。組織学的には amianthoid fiber、赤血球漏出像、ヘモジデリン沈着、泡沫状マクロファージの集簇、嚢状変性、壊死、出血が見られた。免疫組織化学的には EMA に 4 例、desmin に 6 例、CD163 に 13 例、CD68 に 7 例、ER に 13 例、PgR に 3 例 STAT6 に 1 例が陽性となった。AHRR-NCOA2 融合遺伝子は RT-PCR 法により 8 例に検出され、FISH 法により NCOA2 遺伝子転座が 9 例に証明された。

これまでに報告にない組織像や免疫組織化学所見が明らかとなり、これらは AFST であることが遺伝学的に裏付けられた。現時点で未分類の線維性腫瘍に AFST が含まれる可能性が示唆された。